

2021年度 法科大学院

第4期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

売主Xは、買主Yを被告として、XとYが売買契約書を作成して売買契約を締結したとして、売買代金の支払を求める訴えを提起した。これに対し、Yが次の(1)から(3)までの主張をした場合、それぞれの主張にはどのような訴訟法上の効果が認められるか。

なお、(1)から(3)までの主張は、各別に行われたものとして解答すること。

- (1) Xの売買代金債権があることを認める。
- (2) XとYが売買契約を締結したことを認める。
- (3) Yが売買契約書に署名押印したことを認める。

(解答は全て解答用紙に記入すること)

[刑事訴訟法]

警察官Kは、覚醒剤事犯の検挙例が多い地域を警ら中、挙動不審のXを発見し、職務質問を開始した。Kは、Xに覚醒剤常用者特有の言動・態度が認められたことから、Xに対して最寄りの交番に任意同行を求めたところ、Xはこれに素直に応じた。Kは、同交番内において、Xに対して、その所持品のバッグの内容について質問したが、Xは全く答えなかった。そのため、Kは、その後約30分間にわたり、Xに対してバッグを開けるよう説得したが、Xがこれを拒み続けたので、Xの承諾のないまま、無施錠のバッグのチャックを開けて中を一瞥したところ、バッグ内にビニール袋に小分けされた覚醒剤が20袋以上入っているを発見した。このKの警察活動の適法性について、下記の〔 〕内の用語をすべて使用して、論述しなさい。

〔職務質問、所持人の承諾、権利侵害、搜索、付随行為、必要性、公共の利益、強制〕

(参考条文)

警察官職務執行法

第2条 警察官は、異常な挙動その他周囲の事情から合理的に判断して何らかの犯罪を犯し、若しくは犯そうとしていると疑うに足る相当な理由のある者又は既に行われた犯罪について、若しくは犯罪が行われようとしていることについて知っていると思われる者を停止させて質問することができる。

2 その場で前項の質問をすることが本人に対して不利であり、又は交通の妨害になると認められる場合においては、質問するため、その者に附近の警察署、派出所又は駐在所に同行することを求めることができる。

3 前2項に規定する者は、刑事訴訟に関する法律の規定によらない限り、身柄を拘束され、又はその意に反して警察署、派出所若しくは駐在所に連行され、若しくは答弁を強要されることはない。

4 警察官は、刑事訴訟に関する法律により逮捕されている者については、その身体について凶器を所持しているかどうかを調べることができる。